

会議録

令和5年3月15日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和4年度第8回定例会
開催日時	令和5年1月25日(水) 18時30分から20時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、荒井茂、谷関幸子、小須田厚子、海老澤裕恵、石川健、青木美紀子、渡部國夫、小沼純子、荒井容子、高井正、中嶋太 職員：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、三城分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、星野事業係主査
欠席者	ギログリー江美、三沢英俊
議題	1 審議事項 (1) 令和4年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和4年度第7回定例会会議録(案)について 2 主催事業について (1) 令和4年度公民館主催事業報告について(資料3) (2) 令和4年度公民館主催事業計画について(資料2) (3) 令和5年度主催事業計画について 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 (4) 西東京市教育計画策定懇談会会議報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和4年度第9回定例会の開催について (2) 令和4年度第2回利用者懇談会について (3) その他
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和4年度第6回定例会会議録(案) 資料2 令和4年度公民館主催事業計画書 資料3 令和4年度公民館主催事業報告書 資料4 令和4年度第1回利用者懇談会報告
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(4名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和4年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和4年度第6回定例会会議録(案)について承認</p> <p>(2) 令和4年度第7回定例会会議録(案)について ●令和4年度第7回定例会会議録(案)については、各自確認をし、1週間以内をめぐり修正意見を公民館に送ることとする。</p> <p>2 主催事業について</p> <p>(1) 令和4年度公民館主催事業報告について(資料3)</p>	

○A委員

子育て中の人のための講座（保育付き）「家族みんなの食育講座」（田無）について伺いたい。備考欄に自主サークル化したことが書かれているが、孫育てをしている年代の方もサークルに参加しているか。

○分館長（田無）

学習支援保育を利用する方と、保育を利用しないが子育て中の方、孫育ての方がサークルに参加している。

○B委員

子育て中の人のための講座（田無）について、参加者の感想を読むと、学ぶ楽しさを感じていること、子育て世代と孫育て世代が交流しながら学んだことがわかる。文章講座（保育付き）「きっと誰かに伝えたい、私だけのストーリーボード」（谷戸）について、参加者の感想に「しっかりと子どもと向き合って保育していただき驚きました」とあり、安心感だけではない何かを感じとっていることがわかる。私は、公民館保育員研修の講師をさせていただいた折、保育員のみなさんが「預ける」「預かる」という行為そのものを大切に考えて熱心に取り組んでいると実感したが、その実践の成果だと思う。子育て世代も参加できる講座（保育付き）「より素敵な生活へのチェンジ～幸せって何？～」（芝久保）について、「担当者の考察・課題」欄に「現在の保育付き講座は15分短縮のため、講義内容を深めるのには時間が足りないと感じた」とある。一般対象の講座に保育を付けたケースだと思うが、保育付きのため時間を短縮せざるを得ず残念だっただけで終わらせないでほしい。講座の学びの中で保育室に子どもを預けることも取り上げるなどできたらよかったのではないかと思った。

○C委員

高齢者対象講座「私だけの人生ノートづくり」（保谷駅前）について、参加者の年代が知りたい。暮らしに役立つ実学講座「食品ロス削減に取り組もう」（芝久保）について、遠方にいる講師のためオンラインを活用したとあるが、講師の勤務先からすると遠方とは思えない。遠方を理由にしたのはなぜか、伺いたい。「田無つながるプロジェクト」（田無）について、「担当者の考察・課題」欄の記載は、3年間に及ぶ実践に対しての考察か、単年度の、今年度の取り組みに対しての考察か、確認したい。子ども向け自然観察講座「カブトムシが好きな子あつまれ！」（谷戸）について、小学校4年生の感想に「幼虫がたくさんいて、とりはだがつた」とある。また、中学生の参加者が飼育している昆虫を持参して、みんなに触らせてくれたという。公民館ならではの講座だと感じた。

○分館長（保谷駅前）

60歳以上だが、詳細については、次回、回答する。

※第9回定例会で回答 60歳代4人、70歳代10人 80歳代13人

○分館長（芝久保）

暮らしに役立つ実学講座（芝久保）の大学教員の講師については、来館ではなくオンラインによる登壇が講師受諾の条件だった。

○C委員

講師が来館せずにオンラインを活用して講座を行う場合は、その根拠を明確にした方がよい。そういう分析により、オンラインならではの講座になるのではないか。

○分館長（田無）

「田無つながるプロジェクト」（田無）は、最初から3年間にわたって実施することを意図して企画・実施した事業ではない。今年度は、過去2年間の講座で話し合われたことをもとに、ロビー企画に取り組んだ。

○C委員

「担当者の考察・課題」欄の記載は、3年間の実践に対してのものか、単年度の実践に対してのものか、わかるように書いた方がよいと思う。

○D委員

暮らしに役立つ実学講座（芝久保）について、定員14人に対して参加者は6人でもったいないと思う。「担当者の考察・課題」欄に、「3人の講師の話聞く機会となったが、内容を絞る難しさを感じた」とあるが、詳細を知りたい。

○分館長（芝久保）

講師は、食品ロス問題等の専門家の大学教員と西東京市職員2人の合計3人。まず、大学教員の講師に食品ロス問題の概要を話していただいた上で、市職員が西東京市の現状と取り組みについての話をしたが、両者の話の関連性がわかりにくかった。

○D委員

公民館主催講座において、複数の講師を依頼することはよくあるが、講師の間で共通理解をもったり、分担したりすることが大切であると考えます。

この講座は参加者が少なく残念だったが、講座内容を絞らないとわかりにくい。講座の企画においては内容を絞る必要があると思う。

○E委員

暮らしに役立つ実学講座（芝久保）について、定員14人のところ参加者6人は、私ももったいないと思う。広報の仕方もあるが、公民館に行こう、何かを得たいという期待を抱かせるには内容が何か不足していたのではないか。参加したくなるような内容で、呼びかけると効果があるのではないか。

高齢者対象講座（保谷駅前）は参加者も多く、内容もよい。また、企画してほしい。

環境講座“身近な生き物の生態にクローズアップ「ナメクジやカラスは好きですか？」”

（保谷駅前）は成人対象の講座だが、子どもたちも関心があるのではないか。土曜日など子どもたちも参加できる日程で実施してほしい。

○公民館長

先日、チラシの作り方を学ぶ公民館専門員研修を行った。その際、暮らしに役立つ実学講座（芝久保）が例に取り上げられ、「食費が浮く」というキャッチフレーズにすれば興味を引くという指摘があった。受ける側の視点に立って、興味を持ってもらえるような呼びかけが大切であることを学んだ。今後、研修で学んだことを広報に活かしていきたい。

○事業係長

暮らしに役立つ実学講座（芝久保）にオンライン担当としてかかわったが、講師3人の役割分担が明確でなく、内容のすりあわせが不十分であると感じた。担当者の課題・考察にある内容を絞る難しさとは、そのことだと思う。

○D委員

この講座は、西東京市職員の現場の話から始めて、それを受けて専門家が話した方がよかったのではないか。

○F委員

防災講座「おうち防災のススメ」（芝久保）について、「担当者の課題・考察」欄に「スマホの操作が苦手な人に向けた基本的な操作の勉強会などが必要だと感じた」とある。東京都公民館連絡協議会委員部会でも各市で人気のある公民館講座はスマホやパソコンの使い方だと聞く。今後、公民館がデジタル技術等を活用して情報を発信しても、それを受けとることができない高齢者がいる。高齢者を情報弱者にしないためにも、世代間交流も兼ねた、公民館らしいスマホ等の使い方を学ぶ講座の開催を検討してほしい。

○G委員

大学の授業で、西東京市公民館のチラシを取り上げさせていただいている。講座に参加するとどのようなことが学べるかが伝わったり、私に呼びかけていると感じられたりするチラシがよいと思う。

暮らしを豊かにする教養講座「音楽×（カケル）平和」（谷戸）について、「講師の方々が今後西東京の様々なイベントに協力してもらおうつながりができた」とあるが、講師と公民館がどのような関係を築くかは大切なこと。公民館のまわりに相談できる人、情報提供してもらえる人がいることが大切。公民館講座の講師を務めた人同士のつながりをつくっていくことも大切だと思う。

(2) 令和4年度公民館主催事業計画について(資料2)

○G委員

ライフデザイン講座「仕事なんか生きがいにするな～生きる意味を再び考える～」（柳沢）

について、「仕事なんか生きがいにするな」というタイトルは、挑戦的で、問題提起になっていて、とてもよい。どのような層が参加するか、楽しみにしている。

○事業係長

本当の内容はサブタイトルの「生きる意味を再び考える」だが、目にとめてもらうために、講師の著書のタイトル「仕事なんか生きがいにするな」を講座のメインタイトルにした。

○F委員

「SDGs ロビーフェスタ田無」（田無）について、多世代が語り合う意欲的な取り組みだと思う。あめんぼ青年教室（障害者学級）も発表を行うことになっているが、あめんぼ青年教室もSDGsについて取り組んだことがあるので、それを発表するというのか。

○分館長（田無）

合唱曲の「ほかの誰とも」は、自由に生きていいんだと呼びかける歌で、披露する健康体操を指導していただいている講師はSDGsを意識している方である。

○F委員

あめんぼ青年教室は、いつも田無公民館まつりで発表しているが、「SDGs ロビーフェスタ田無」は、それとは別の催しととらえてよいか。

○B委員

子どもたちは、小学生の時からSDGsについて学んでいる。この事業は、親子でエコ花瓶づくりをしながら、親も学ぶとてもよい企画。また、田無公民館ロビーからスタートして2階・3階の学習の場へ、そして、地域へと広がると、事業計画書に言葉で表現されていて、わかりやすい。

○E委員

子ども向け学習講座「カレー作りゲームで学ぶお金の基本のキ～自分と地球にやさしいおこづかいの使い方とは～」（谷戸）について、子どもたちがお金のことを学ぶことはとてもよいことだと思うが、この講座は親子を対象としているのか、子どものみを対象としているのか。

○分館長（谷戸）

子どもたちの学年によって異なる。新3、4年生は保護者同伴が原則、新5、6年生は、原則として子どものみ対象だが、希望する場合は保護者の参加も可としている。

○F委員

小学校長の中嶋委員に伺いたい。学校の授業で、子どもたちがお金のことを学ぶ機会はあるか。

○H委員

碧山小では、金融教育を2年生、4年生、6年生で行っている。年1回、総合的な学習の時間に専門家を招いて、お金の価値やお金の循環、使い方について、指導してもらっている。子どもたちは、6年間に3回、学ぶことになる。

○C委員

現政権は、国民の間に投資を広めたいと考えている。だから、学校教育の場でお金の循環を取り上げるのだと思うが、公民館の講座でのお金についての学びは、それとは異なると思う。

○G委員

国の意図は、消費よりも貯蓄に向かう日本国民の傾向を変えようということだと思う。

○D委員

学校教育の場では、以前から、家庭科の授業で、子どもたちが材料を買うことから始めて、カレーをつくるという実践が行われている。

○I委員

11月の定例会で事業計画書が提出された事業、趣味講座「あなたの知らない川柳の世界」（保谷駅前）について伺いたい。公民館だよりの募集記事によると、この講座は、30歳くらいまでの市内在住・在勤・在学者を対象としている。小学生から高齢者までできる川柳を取り上げた趣味講座で対象を限定する理由は何か。

○分館長（保谷駅前）

Z世代を対象に講座を行いたいという講師の希望による。

○I委員

公民館だよりの川柳コーナーの投稿者は、Z世代よりも上の世代だと思う。年齢で差別するのはいかがなものかと思う。

○事業係長

趣味講座（保谷駅前）は、公民館だよりの一面特集で講師を取り上げたことが縁で、企画された講座。今、SNSで、俳句や短歌が若い人の間でブームになっていることもあり、公民館の利用が少ない若い層に向けて企画した。

○F委員

東京都公民館連絡協議会委員部会で公民館だよりを配布した時、この講座に参加したいという60歳以上の人が複数いた。今回の意見を受けて、発信の仕方や趣味講座のあり方について検討してほしい。Z世代対象という公民館の意図があるならば、それを明記してもよかったかもしれない。

(3) 令和5年度主催事業計画について

●事業係長より概要について説明

○F委員

来年度、土・日曜日開催の講座に保育を付けることができるようになったのか。

○公民館長

関係する要綱の改正も終わり、可能になった。

○F委員

今年度企画された日曜日開催の家族対象講座「なりたいふたり（家族）になるためのコミュニケーション講座」（柳沢）のような講座にも保育を付けることが可能になるのか。

○事業係長

可能になる。

○B委員

乳幼児を持つ母親のための講座の中の数回が保育付きで土・日曜日に開催されると理解していたが、単発の講座にも保育を付けるということか。

○事業係長

単発講座として実施するのではなく、保育付きの連続講座の中で実施することを考えている。

○D委員

田無公民館では、現代的課題を考える講座を継続実施してきたが、来年度は実施しないのか。

○分館長（田無）

「SDGsロビーフェスタ田無」（田無）の中で現代的課題を考える予定。

○D委員

現代的課題として、何を取り上げるのか。

○分館長（田無）

本事業では、他館で取り上げていないSDGsを取り上げ、課題意識をもった市民の語り合いの場とする。

○F委員

田無公民館では、地域交流事業として長年にわたって「田無公民館まつり」が行われてきたが、来年度は、それに代わって、「SDGsロビーフェスタ田無」「ギャラリー田無公民館」「サークル見学月間」「曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会」を行うととらえてよいのか。

○分館長（田無）

大きくそのようにとらえていただいて構わない。

○公民館長

地域交流事業は実行委員会方式で行われ、利用団体が企画・実施してきた。来年度の田無公民館の地域交流事業については、「SDGsロビーフェスタ田無」という田無公民館の提案をもとに、今年度までの田無公民館まつり実行委員会の方たちとも話し合いながら、どのように

つなげていくか、模索していきたい。

公運審委員のみなさんの地域交流事業に対するご意見を伺いたい。

○F委員

私は、長年「ひばりが丘フェスティバル」に実行委員としてかかわってきた。フェスティバルを利用者が作り上げていく中で利用者同士の交流が生まれ、ただ利用するだけでなく、その公民館を支えていこうという気持ちが生まれる作用があると思う。

○B委員

田無公民館まつりは実行委員会方式で実施されていたと思うが、実行委員会の意向もあって、「SDGs ロビーフェスタ田無」に移行するのか。移行の流れを教えてください。

○分館長（田無）

田無公民館まつりは、今年度までに14回、開催してきたが、前身はサークル見学会。サークル見学会は8回行われていたが、他館が公民館まつりを実施しているのを受けて、サークル見学会から公民館まつりに移行した経緯がある。サークル見学会には約40団体が参加していたが、今年度の公民館まつりの実行委員会には10団体ほどしか参加していない。今年度最後の実行委員会で、会議の回数が多くて負担が大きい、体験会ができない、負担が大きくて実行委員会に参加できない、発表の場としては市民文化祭があり田無公民館は練習の場である等々の意見が出された。これらの不都合を解消するために実施しているのが、今年度からスタートした「曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会」。サークルの負担も少なく、多くのサークルが参加しており、サークル活動の活性化や新規会員の加入につながっている。サークル間の交流の場にもなっている。

○公民館長

公民館まつりは、市民に公民館を知ってもらう機会でもあることも考慮し、負担を少なく、どのように開催していくか、検討していきたい。

○A委員

地域の人々の展示会（谷戸）について、展示する人を公募で集めるのか、公民館から依頼するのか。構想があれば、伺いたい。

○分館長（谷戸）

団体に限らず、個人も対象に公募して展示する形を考えている。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

12月市議会、教育委員会、令和5年度の施政方針の3点について報告する。

まず市議会について報告する。11月24日の一般質問の際に公民館の所管の在り方について質問があり、「公民館は教育委員会が所管する」という答弁を行っている。また、公共施設の男子トイレへのサンタリーボックスの設置を求める質問があり、「市庁舎、図書館、公民館等に設置を進める」と答弁している。来年度、公民館の男子トイレに設置する予定。

次に教育委員会について報告する。11月の教育委員会において、付帯意見も含めて令和3年度公民館事業評価について報告した。質問が2点あった。1点は行政専用の申込フォームであるLog oフォームについての質問。もう1点はまちなか先生についてで、令和3年度の実績について報告した。1月の教育委員会では、委員から、12月市議会で公民館の所管にかかる質問に対して教育委員会で所管すると明確に答弁したことを評価するという意見が出された。また、公民館だよりを見ると講座の申し込み方法が、電話、メール、Log oフォームと様々だが、基準があるのかという質問があり、対象によって選択していること、Log oフォームの活用を考えていることを説明した。委員からは、申し込み方法が電話のみだと働いていると申し込みにくくという意見が出された。

最後に来年度の施政方針についてだが、重点的に取り組むものとして平和事業があげられている。公民館としては、まちなか先生で平和講座を実施する。また、継続的に取り組んできた講座の中で平和について取り上げる予定。

○C委員

旧保谷市の公民館だよりでは、この地域の戦争体験を取材して記録することに力を注いできた。その蓄積を振り返ってほしい。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、1月10日開催の公民館だより編集室会議について報告。公民館だより2月1日号一面特集では、まちなか先生を取り上げる。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、第8回及び第9回運営委員会について報告。

(4) 西東京市教育計画策定懇談会第4回会議報告

- 担当委員より、1月23日開催の西東京市教育計画策定懇談会第4回会議について報告

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和4年度第9回定例会の開催について

日時：令和5年2月15日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館視聴覚室

(2) 令和4年度第2回利用者懇談会について

3月に開催される各館の利用者懇談会の日程について連絡

(3) その他